

地域の催しや明るい話題などが
「こぞ」になりましたら、気軽に広報係
までご連絡ください。
☎43・5003(情報課)



地球のしわ、身近に。

鞘形褶曲



▲寄贈された岩は縦42cm、横36cm、高さ25cmとなっています

約1億年前の地殻変動の動きを示す鞘形褶曲の岩が市に寄贈され、12月15日に沼島ターミナルセンターで展示されました。鞘形褶曲は地殻変動によって力が加わり地層が同心円状に変形する現象で、

世界でも数例しか見つからない貴重な岩石です。沼島で初めて確認されたのは平成6年。沼島北端の黒崎海岸で発見されました。同海岸は徒歩では辿りつけないところにあり、船で行っても満潮時には水没してしまいます。同センターへ展示された岩石を所有していたのは山野清さん(沼島)。明治時代に家を建てた際、鞘形褶曲の岩を庭石として利用していました。山野さんは「地球のしわを



▲寄贈した山野さん(中央)。岩はアクリルケースに入れ展示されています

多くの観光客に知ってほしい。少しでも沼島の観光PRに役立てれば」と話しています。

今年一年の息災を願って

蛇供養



▲最後には木に巻きつけて供養を終えます

倭文安住寺地区で1月11日、蛇供養が行われました。これは500年前からの地区で続いてきた伝統行事で、

わらで作られた大蛇を人や車に巻きつけながら五穀豊穡と無病息災を願う祭りです。午前中にわらを編んで大蛇を作り、午後からはその大蛇を倭文小学校の児童たちが担いで練り歩きました。

霊元蒼麻くん(倭文)は「蛇が重くて大変だった。でも楽しかった」と話していました。



▲大蛇の胴体を担ぐ児童たち

西淡公民館で12月18日、南淡路だんじり唄交流会が開催されました。



▲そろいの法被を身にまとい、太鼓や拍子木のリズムに合わせて唄う参加者

同交流会には、市内でだんじり唄を学ぶグループ12団体約200人が参加。練習の成果を披露しました。同交流会は祭礼団などとは違うだんじりを持たない団体が技術の向

上を図るため、平成8年から毎年開催されています。各団体の唄い込んだ絶妙な節回しと熱演に、会場の参加者から惜しみない拍手と声援が送られました。交流会に初めて参加した神代だんじり唄クラブの市川龍さん(神代)は、「だんじり唄が好きで人たちがで結成し参加した。次の語り手が唄いやすいよう、感情を込めて唄った。今後も機会があれば参加していきたい」と意気込みを見せました。



▲玉藻前旭の袂三段目や仮名手本忠臣蔵七段目などを披露

三番叟を奉納

淡路人形座

淡路人形座が1月2日、三條八幡神社と上田八幡神社で淡路人形に伝わる神事、三番叟を奉納しました。

三番叟とは事始めの儀式として行われる伝統的演目です。太鼓や鼓、笛などの音に合わせて3体の人形を優雅に操り、見学に訪れた地域住民約30人を魅了しました。同人

形座坂東千秋支配人は「昨年は東日本大震災で自然の脅威を感じる1年だったので、今年には災いなく暮らせるようお願いを込めて奉納した。また人形会館のオープン控えている。飛躍の年としてより一層の技術向上、そして地域に根差した人形座にしていきたい」と意気込みを語りました。



▲三條八幡神社で奉納された三番叟

ウィークエンドレストランがオープンしました

西淡まちづくり協議会



▲オープン初日に参加したボーイスカウトやわんぱく塾で活動する子どもたち。同レストランは原則日曜日の午前11時~午後3時までオープンします

西淡まちづくり協議会はウィークエンドレストランを12月18日、ショッピングセンターシーバにオープンしました

た。同レストランでは、地元食材を使用。改めて地元の人たちに食材のよさを再認識してもらい、消費拡大を図ることを目的としています。オープン初日にはボーイスカウトやわんぱく塾で活動する子どもたち15人が、カレーライス100食を作りました。淡路牛や市内で生産されたコシヒカリ、たまねぎなどが使用されています。訪れた井上莉果子さん(津井)は、「たまねぎやお米



▲1食300円で提供。売り上げの一部を東日本大震災の被災地へ義援金として送付します

の甘みでカレーが一段と美味しくなっています。また来てみたい」と笑顔で話していました。同協議会の山口恒利会長(松帆)は「地元の食材を活用し、地産地消を進めていきたい」と話していました。今後2月までは食に関心のある地元の団体を、3月以降は島外の調理学校の生徒たちに、食を提供してもらう予定です。

大鏡もち運び

薬王寺

北阿万筒井の薬王寺で1月12日、大鏡もち運びが行われました。これは新年の恒例行事として同寺で行われているもので、重量が合わせて150kgを超える大鏡もちと三方を抱え、歩いた距離を競い合うものです。

今年も島内外から集まった担ぎ手たちが、観客の声援を受けながら全力でもちを抱えて、一歩ずつ前へと進み距離を競いました。

向江弘行さん(松帆)は「もちがとても重くて足がパンパンになった。でも、来年も機会があれば参加したい」と話していました。



▲ふらふらになりながらも、もちを運ぶ参加者

おめでとう

作文コンクール

木田 あゆさん(神代)
全国小学生作文コンクール「わたしたちのまちのおまわりさん」で木田さんの作品が優秀賞に選ばれ、表彰されました。



▲お巡りさんへの日ごろの感謝の気持ちを作文につづりました

淡路農林水産祭表彰

淡路農林水産祭で農林水産業の発展などで貢献した人たちに表彰が伝達されました。

◆兵庫県自治賞

(農業) 長尾 文善さん(広田)

◆農林水産功労

(農業) 細川 満さん(八木)

林 均さん(灘)

伊木 澄子さん(松帆)

(漁業) 田村 栄助さん(沼島)

橋本 昌和さん(灘)

南淡路だんじり唄交流会



▲幅広い年齢層の人たちが参加